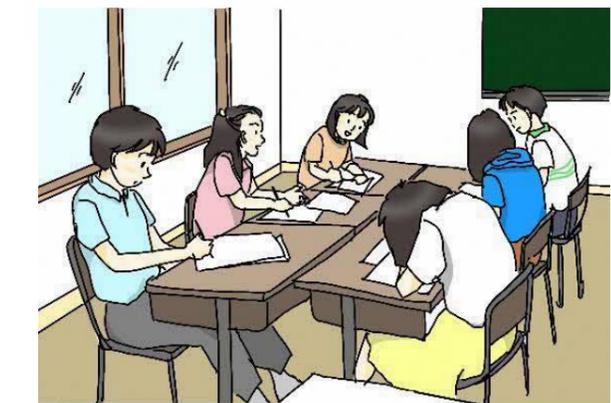


●第1回の意見交換で挙げた意見を抽出し、7つの論点に集約。

●第2回以降、「10年後の新しい学校」を共通テーマとし、これらの論点について、各委員から意見や提言をいただき、意見交換を行う。

●アンケート結果や学校別・地域別の状況、児童・生徒数推計等の各種データのほか、現在改定中の教育大綱・教育振興基本計画なども踏まえ、基本方針の基本的な考え方や視点に結び付けていく。

●意見交換の中で挙げた「10年後の新しい学校」のイメージをイラスト等により「見える化」し、基本方針に盛り込んでいく。



## 7つの論点

<b>論点1</b> 教育環境の規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小規模校の良い面：子ども同士の人間関係がより深まりやすい、個に応じた学びに深く迫りやすい、一人ひとりに先生の目が届く、個人の存在感が高まる、など。</li> <li>● 小規模校の悪い面：人間関係やお互いの評価が固定化しやすい、ダイナミックな学習活動に制約が生じやすい、教職員の配置人数が少なく、一人あたりの校務負担が非常に多くなる、など。</li> <li>● 学校の小規模化により教職員人数が少なくなると、部活動数の維持は厳しくなる。</li> <li>● 縦の関係（学年を超えて）や校外のカリキュラム、民間との連携など、<b>たて、よこ、ななめのコミュニケーション</b>も必要ではないか。</li> <li>● 望ましい学校規模（1学年あたりの学級数）としては、 小学校は2～3学級（25～30人程度）、中学校は3～4学級（30～35人程度）</li> </ul>								
<b>論点2</b> それぞれの居場所	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="350 562 439 688">子供</td> <td data-bbox="439 562 1400 688"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様性に配慮し、多様な性質の居場所が必要であり、意見聴取等を行い、子供たち自身が必要と思う空間を提供すべき。</li> <li>● 場所に応じた人的サポートを提供できるような体制作りも必要。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="350 688 439 846">教員</td> <td data-bbox="439 688 1400 846"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員室と廊下の上に相談ラウンジを作るなど、先生と子供の両方が使える中間領域のような場所があるといい。</li> <li>● 個人的な居場所（1人でいられる場所）／社会的な居場所（先生同士で交流できるワークスペース）。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="350 846 439 940">地域</td> <td data-bbox="439 846 1400 940"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域活動で利用する人が、子供たちのサポートをしてくれるといい。</li> <li>● 管理、セキュリティを確保しつつ、地域の方も利用できるようにする。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="350 940 439 1024">その他</td> <td data-bbox="439 940 1400 1024"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>活動は多様で、目的に合った居場所を見つけられることが好ましい。</b></li> <li>● <b>セキュリティの確保、管理を誰が担うか、</b>ということが課題。</li> </ul> </td> </tr> </table>	子供	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様性に配慮し、多様な性質の居場所が必要であり、意見聴取等を行い、子供たち自身が必要と思う空間を提供すべき。</li> <li>● 場所に応じた人的サポートを提供できるような体制作りも必要。</li> </ul>	教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員室と廊下の上に相談ラウンジを作るなど、先生と子供の両方が使える中間領域のような場所があるといい。</li> <li>● 個人的な居場所（1人でいられる場所）／社会的な居場所（先生同士で交流できるワークスペース）。</li> </ul>	地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域活動で利用する人が、子供たちのサポートをしてくれるといい。</li> <li>● 管理、セキュリティを確保しつつ、地域の方も利用できるようにする。</li> </ul>	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>活動は多様で、目的に合った居場所を見つけられることが好ましい。</b></li> <li>● <b>セキュリティの確保、管理を誰が担うか、</b>ということが課題。</li> </ul>
子供	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様性に配慮し、多様な性質の居場所が必要であり、意見聴取等を行い、子供たち自身が必要と思う空間を提供すべき。</li> <li>● 場所に応じた人的サポートを提供できるような体制作りも必要。</li> </ul>								
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員室と廊下の上に相談ラウンジを作るなど、先生と子供の両方が使える中間領域のような場所があるといい。</li> <li>● 個人的な居場所（1人でいられる場所）／社会的な居場所（先生同士で交流できるワークスペース）。</li> </ul>								
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域活動で利用する人が、子供たちのサポートをしてくれるといい。</li> <li>● 管理、セキュリティを確保しつつ、地域の方も利用できるようにする。</li> </ul>								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>活動は多様で、目的に合った居場所を見つけられることが好ましい。</b></li> <li>● <b>セキュリティの確保、管理を誰が担うか、</b>ということが課題。</li> </ul>								
<b>論点3</b> 地域とともに子供を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域資源を活かした教育活動：田植え・稲作体験、野菜栽培、地域事業所での校外学習、漁港での水産業の学習など。</li> <li>● 地域住民によるボランティア活動：読み聞かせ、清掃や花壇の整備、登下校時等の見守りなど。</li> <li>● 少子化と高齢化が進んでいるなかで、<b>地域が学校を支えきれない状況</b>が出てくる可能性がある。</li> <li>● 学校は「<b>つながりを作る場所</b>」であり、地域との役割分担や専門スタッフの導入等により、教職員の負担を軽減しながら、<b>つながりの場を充実させることが大切。</b></li> </ul>								
<b>論点4</b> 地域に開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校運営協議会をとおして地域の協力を得て、学校が必要とする地域人材を活用、学校の課題、地域の課題に協力して取り組んでいる。</li> <li>● 地域活動は、どれも学校との<b>つながりが強く、学校ありきのコミュニティ</b>である。</li> <li>● 地域ごとの公共施設の配置状況や老朽状況を検証したうえで、<b>それらが更新時期を迎えるタイミングと合わせて、地域全体で公共施設の再編を考えるべき。</b></li> </ul>								
<b>論点5</b> デジタル化の進展と教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 進化の速さに対応するためには、シェアを前提とした設備設計や、ある程度のフレキシビリティも重要。</li> <li>● ICT導入で効率化だけを考えると学校による格差は埋まらない。</li> <li>● <b>リアルとオンラインを適切に組み合わせ、一人ひとりの学びを保障し、育ちを支える。</b>そのためのICTであり、環境整備である。</li> </ul>								
<b>論点6</b> 教育環境のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 10年後に必要な教育事業を継続していくための<b>予算調達を計画するのが重要。</b></li> <li>● <b>1つの学校をよくするのではなく、市全体の学校をよくするためにどうするかを考える必要がある。</b></li> <li>● 複合化、統廃合などは、他の公共施設との関係を考える必要がある。<b>学校単独の問題にとどまらない。</b></li> </ul>								
<b>論点7</b> 選択肢と多様性									

## 「10年後の新しい学校」のイメージ

○新しい学校は・・・

**「関わる力」を育む場所  
たて／よこ／ななめのつながりが生まれる場所**

望ましい学校規模  
小学校：1学年2～3学級  
中学校：1学年3～4学級

○新しい学校では・・・

● 子供たちが多くの友達や大人たちに囲まれて、学び合いやコミュニケーションを通して「関わる力」を養うことができる。

● 子供たち、教職員、地域の人など、学校で過ごす全ての人が、目的に応じた多様な居場所で、思い思いの時間を過ごすことができる。

● 地域資源や地域の特色を最大限活用した、多様な教育活動が学校ごとに行われており、担い手として地域の人が多く参加している。

● 地域の人ができるスペースや機能は、地域の実情やニーズに応じて決められており、充実した地域活動が行われている。

● 地域活動は学校を中心に行われ、地域住民と子供たちや教職員とのコミュニケーションも活発になっており、「**つながりを作る場所**」として学校が機能している。

● ICTを効果的に活用し、学習者主体の多様な学びを提供すると同時に、**リアルな関わりを育む学びがより充実している。**

● 可変性の高い学習空間の中で、多様な学習スタイルが展開されている。

● 子供たちの特性や地域の特性に応じて、小規模特認校や義務教育学校など多様なスタイルの学校があり、子供たちは**行きたい学校を選択**することができる。

● 全ての学校で、充実したインクルーシブ教育が展開できるように、個々の特性やニーズに合わせた多様な学習・生活環境が用意されている。

● 教職員が生き生きと働き、子供たちと向き合うことができている。



# 新しい学校づくり検討委員会 今後の検討フレーム

R4.4～R5.1

1～5回  
7つの論点の検討

R5.1～3

6回  
**中間報告**  
・ 論点整理  
・ 「10年後の新しい学校」  
のイメージ  
・ **アンケート概要**

## 主な内容

- ・ 望ましい学校規模
- ・ 多様な居場所づくり
- ・ 地域とともにある学校
- ・ ICTに対応した学習空間

…など

R5.4～10

7～10回（予定）  
**推進基本方針**  
**中間報告の内容+**  
・ 現状と課題の整理  
・ 「新しい学校づくり」の  
進め方

## 主な内容

- ・ 児童・生徒・学級数推計
- ・ 学校施設の現状と課題
- ・ コストシミュレーション
- ・ 地域毎の意思決定プロセス

…など

R5.10～

**推進基本計画**  
～どこにどのような  
学校をつくるか～  
・ 地域毎の配置計画  
・ 他施設との複合化  
…など

**施設整備指針**  
～どのような建物を  
つくるか～  
・ 施設のスペック  
・ 諸室配置イメージ  
…など

## 中間報告以降で掘り下げが必要な項目（事務局想定）

論点1：大規模校のメリット・デメリット

論点2：「居場所」の管理について（担い手・運用方法）

論点3・4：地域と学校のつながり・学校の地域利用の現状、避難所としての学校

論点5：ICT活用を前提とした「10年後の教室」の姿

論点6：他の公共施設との複合化

論点7：インクルーシブ教育の充実と求められる施設機能